

VOD型授業の構成と運営

設計思想及び学生アンケートデータに基づく

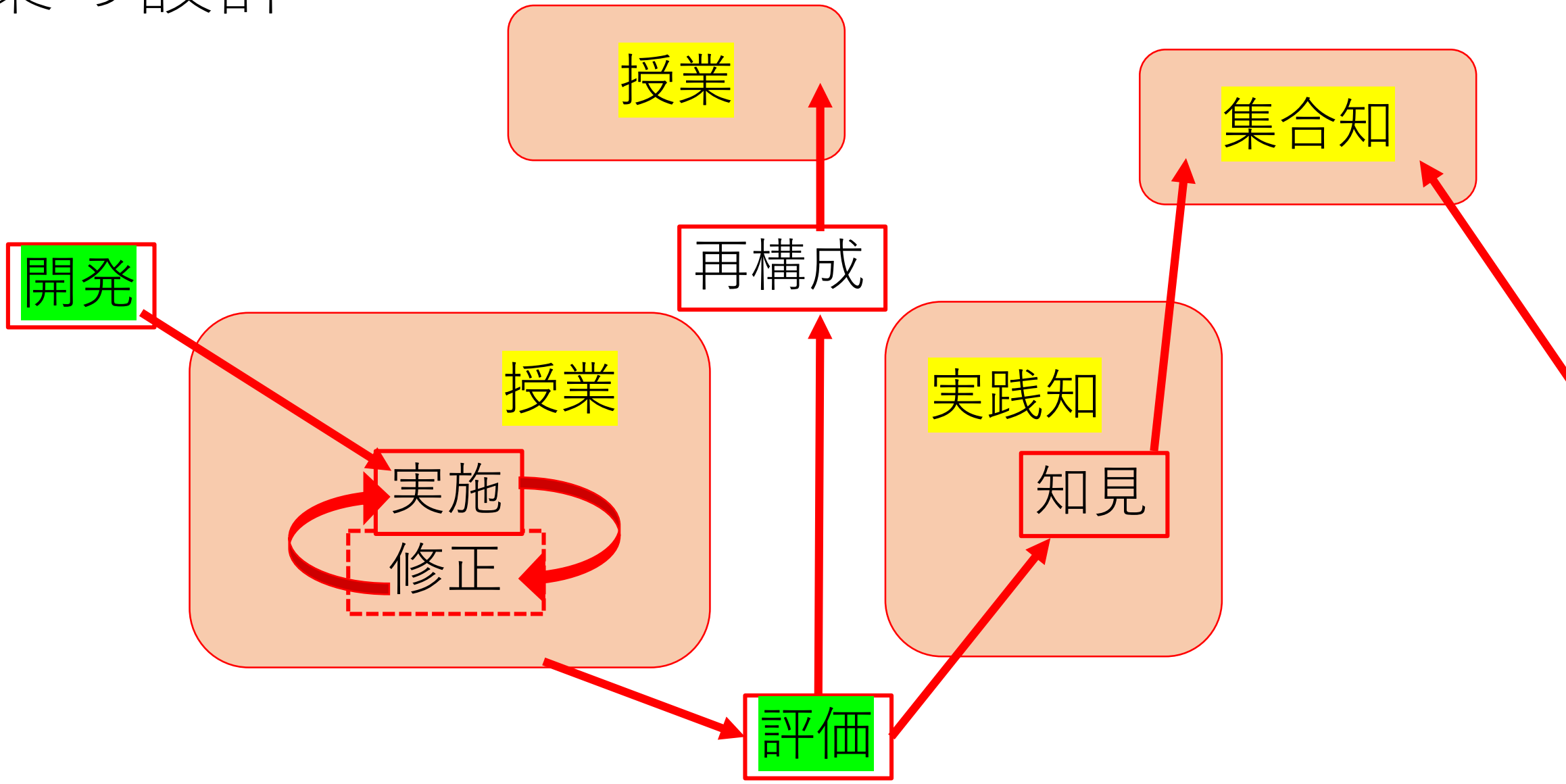
立命館大学教育・学修支援センター

蒲生諒太

目的

- WEB授業の構成と運営のあり方について、教養科目「現代の教育」のオンデマンド型授業の事例をもとに検討する

授業の設計



「現代の教育」について（1）概要

- この科目では、現代の教育に関する諸問題を取り上げる。この科目では、現代の教育問題に関する基礎知識を講義するだけでなく、授業で紹介した諸問題を討議する課題やICTを用いた教育などを用いて、現代の教育を自分のこととして考えていくように促す学習方法を採る。この科目を通じて、日常から教育への関心を養い、現代の教育の諸問題を特定してその解決のための提案を考察することができるようになる。（←科目共通）
- 講義では現代日本（1960年代以降）とその教育の諸相を歴史的・社会的背景から分析しながら、教育政策や教育方法、学校のあり方や青少年の実態と文化の変化を解説し、各自の問題意識を高めたい。教育学に関する基礎的知識の習得を促しつつ、現代日本とその教育について検討する機会としたい。（←オリジナル）

「現代の教育」 について (2) 学習目標

- 到達目標 1. 現代の教育や学びに関するトピックスについて、その背景や構造、関連する基本的な概念や用語について説明することができる。(知識・理解)
- 到達目標 2. 現代の教育や学びに関するトピックスについて、学術的な視点に基づき、解決法や対処すべき課題に関して自らの意見を論述できる。(思考・判断・表現)
- 到達目標 3. 教育や学びについて興味関心を持ち、主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示す。(関心・意欲・態度)

(←科目共通)

設計思想（１）対面授業の頃は・・・

毎回の授業

- レクチャー : 60-70分
- ミニレポート作成 : 30-20分（レクチャーの要約）

→ミニレポートはループリックで評価し、manaba+Rを経由してフィードバック

最終テスト

- 授業内容から50問のマークシート試験
 - * 事前に出題範囲のスライド＋過去問の配布

設計思想（2）対面授業の教室

- スライドを配布しない
→ メモを取る習慣 + 誰も寝ない
- ミニレポートの採点は厳しい
→ 高得点を取るため遅くまで残る
- 授業内容は学生の熱中度が高いものを精選
→ 熱心に授業を聞く

設計思想（3）WEB授業を設計する

- WEB授業（オンデマンド型）としてどうすべきか??
 - 2020春「まずは内容を固めよう」（開発フェーズ）
 - 2021現在「WEB授業の運営形態及びコンテンツの評価を」（評価フェーズ）

開発フェーズ（１）授業の基本フレーム

★オンデマンド動画視聴→小テスト受講・ミニレポート

- 平常点の積み重ね

1. 授業感想（ミニレポート）

2. 小テスト

- ✓30問用意し10問ランダム出題

- ✓選択肢＋単語入力

- ✓ドリル設定＋自動採点

- ✓時間制限で資料のみ解答を阻止

3. 最終講義後の小テスト（確認テスト）＋授業全体の振り返り・考察（ミニレポート）

開発フェーズ（2）評価方法

- 毎回の小テスト 50点
- 毎回の授業感想 10点
- 確認テストと授業全体の振り返り・考察 40点

開発フェーズ（3）フィードバック

- 感想への返答動画（2020春）
- アンケート集計（2020秋）
- 評価のフィードバック（2020春-）

そして、実施へ

やってみて分かったこと：最も大きい点

- 感想への返答動画（2020春）
 - アンケート集計（2020秋）
 - 評価のフィードバック（2020春-）
- 想定外の出来事



立命館1000人アンケート

コロナ禍における立命館大学学部生意識調査

収まることのないコロナ禍の中で学生たちが何を考え、どのように行動したのか.....

近未来の社会設計のために、そして、将来の歴史家のために、

あのとき、何が起きたのか、記録しよう。そう思って調査を開始しました

目次

1. アンケートの手続きと補正方法 (2020.12.10 作成)
2. 単純集計とコメント (1) コロナ禍の学生動向と授業の嗜好性 (2020.12.10 作成)
3. 単純集計とコメント (2) 大学の意義とメディアへの距離 (2020.12.10 作成)
4. ハイリスク行動が起きる条件 (2020.12.11 作成)

フィードバックについて（１）

・2020年度秋学期実施「立命館1000人アンケート」

WEB授業での教員とのコミュニケーションとして最も希望するものは
どれですか

課題や成績評価について

自分個人の成績について

授業内容に関連した話

授業内容を理解するための質問

教員の研究について

教員のプライベートについて

総計

WEB授業において、あなたがもっとも必要とするフィードバックはど
れですか（1つ選択）

課題についての解説（模範解答の提示含む）

自分の提出物への個別コメント

自分個人の成績評価

受講生全員の提出物への講評

総計

フィードバックについて（2）

- 課題や成績評価について知りたい
 - 授業内容を聞いて理解ができなければ質問したい（課題のため？）
 - 出された課題を解いて、その模範解答と自分の点数が知りたい
- 課題・評価に焦点づけられた学習スタイル

自分の授業への気づき

- * オンデマンド動画と課題の抱き合わせ = ゲームの感覚に近い
- 入力(反応)したら出力（報酬）が得られる
- 対面授業でも同じ側面

評価フェーズ（1）フィードバック

- 感想への返答動画（2020春）
→2本作成し1本目は半分の視聴、2本目は1割、ともに視聴持続は低い
- アンケート集計（2020秋）
→ほとんど見られず（1/4程度）

⇒「成績とは無関係ですよ」と言ったら見ない Cf.交流会

- 評価のフィードバック（2020春-）
→毎回きちんと見ていない学生も * 小テスト

⇒質問用の掲示板 & 小テストの点数 & 授業感想の点検

評価フェーズ（２）単位認定：対面授業

年度	学期	キャンパス（学部）	単位認定/受講
2018	春	KIC（産社）	094/107(87.9%)
2018	秋	OIC（経営、政策、総心）	318/349(91.1%)
2019	春	KIC（産社）	168/185(90.8%)
2019	秋	OIC（経営、政策、総心）	326/343(95.0%)

評価フェーズ（３） 単位認定：WEB授業

年度	学期	キャンパス（学部）	単位認定/受講
2020	春	KIC（法学、産社、文学、映像）	961/1105 (87.0%)
2020	秋	OIC（経営、政策、総心）	252/298(73.5%)
2021	春	KIC（法学、産社、文学、映像）	—/300(—%) *260程度(86.7%)
2021	春	BKC（経済、理工、食マネ、生命、薬学、スポ健）	—/298(—%) *260程度(87.2%)

評価フェーズ（４）不認定者の特徴

- 2020春

= F評価144人中102人（70.8%） ⇒確認テスト未受験者

- 2020秋

= F評価46人中40人（87.0%） ⇒確認テスト未受験者

→途中脱落か、成績評価方法の確認不十分

→学習者の自己調整能力＋学期特有の事情、キャンパス特性

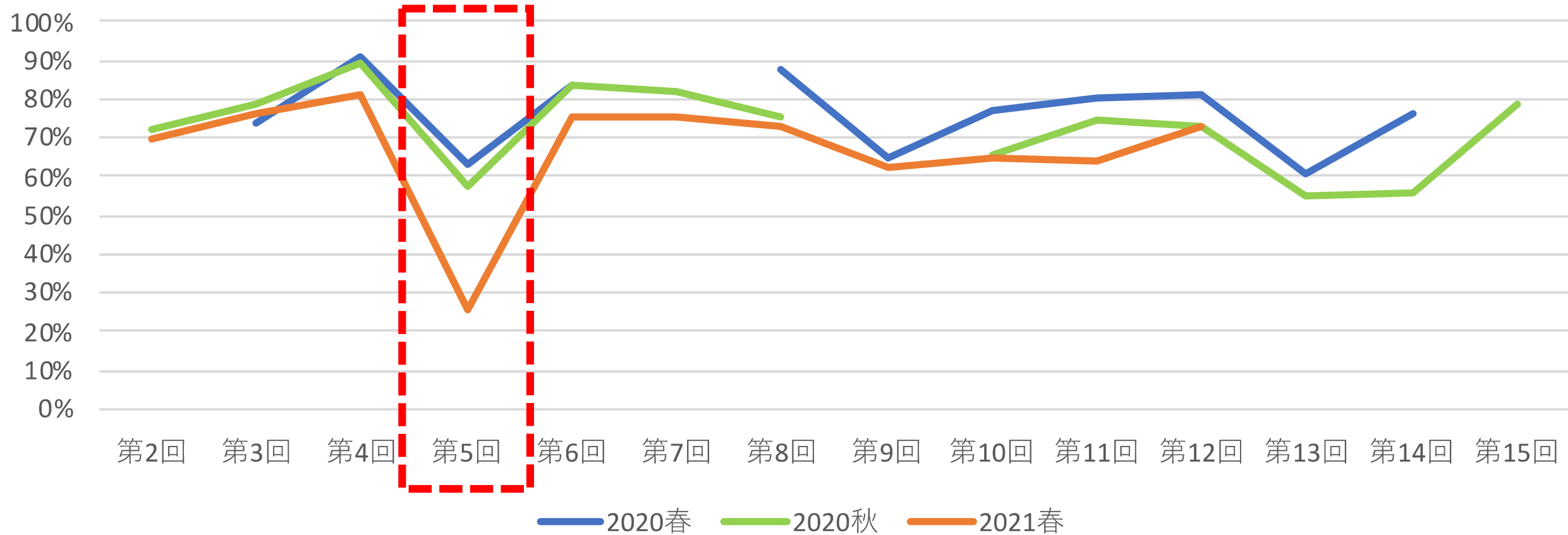
評価フェーズ（5）単位認定：総評

- 対面授業の単位認定率 88-95%
 - WEB授業の単位認定率 73-83%
- 現時点では評価がしづらい（「2021春」の結果待ち）
- 学期特有の事情＋キャンパス特性が影響＝結果の解釈が難しい

評価データについて

- 成績データ（単位認定、小テストの点数、授業感想の提出状況など）
- 授業アンケート
- 毎回のアンケート（理解度、集中度など）

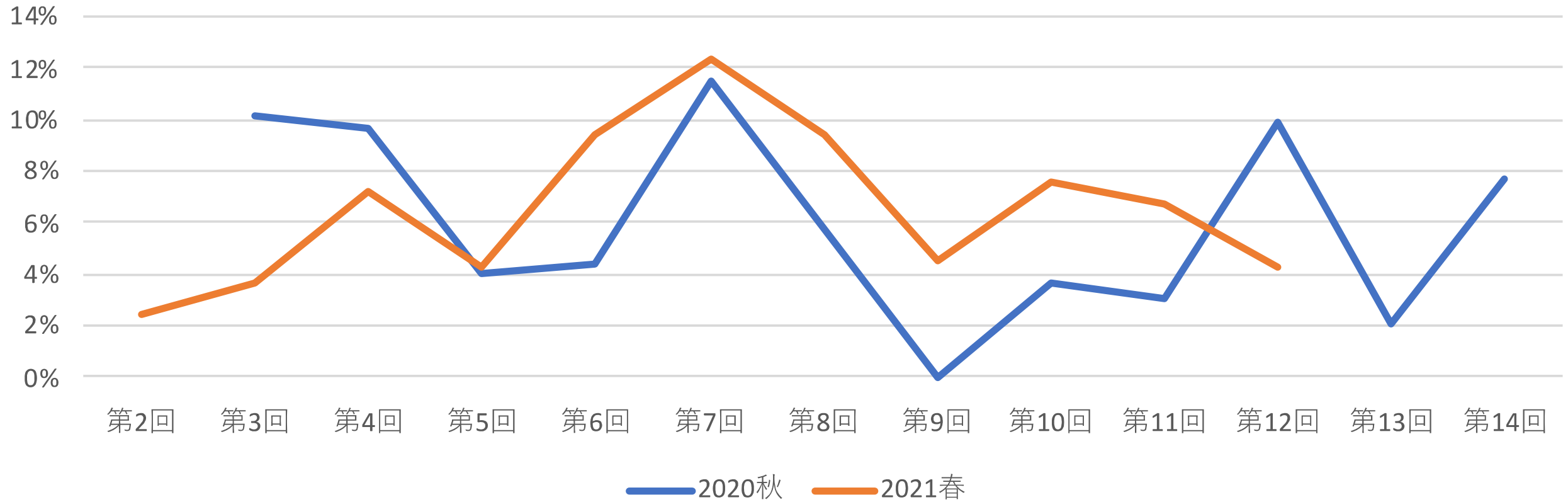
理解度（かなり理解＋理解）



直接評価＝小テストの点数

→小テストとの**相関**
→コンテンツの評価

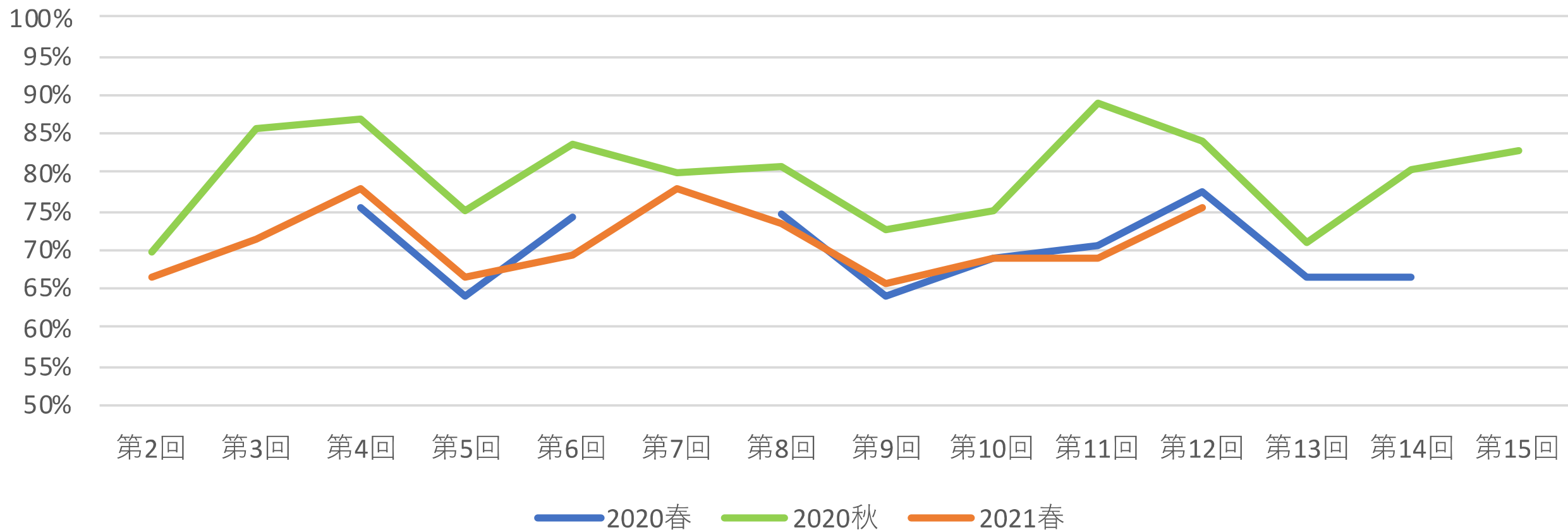
小テスト難易度（かなり簡単＋簡単）



直接評価＝小テストの点数

→ 小テストの評価
→ 学力実態の把握

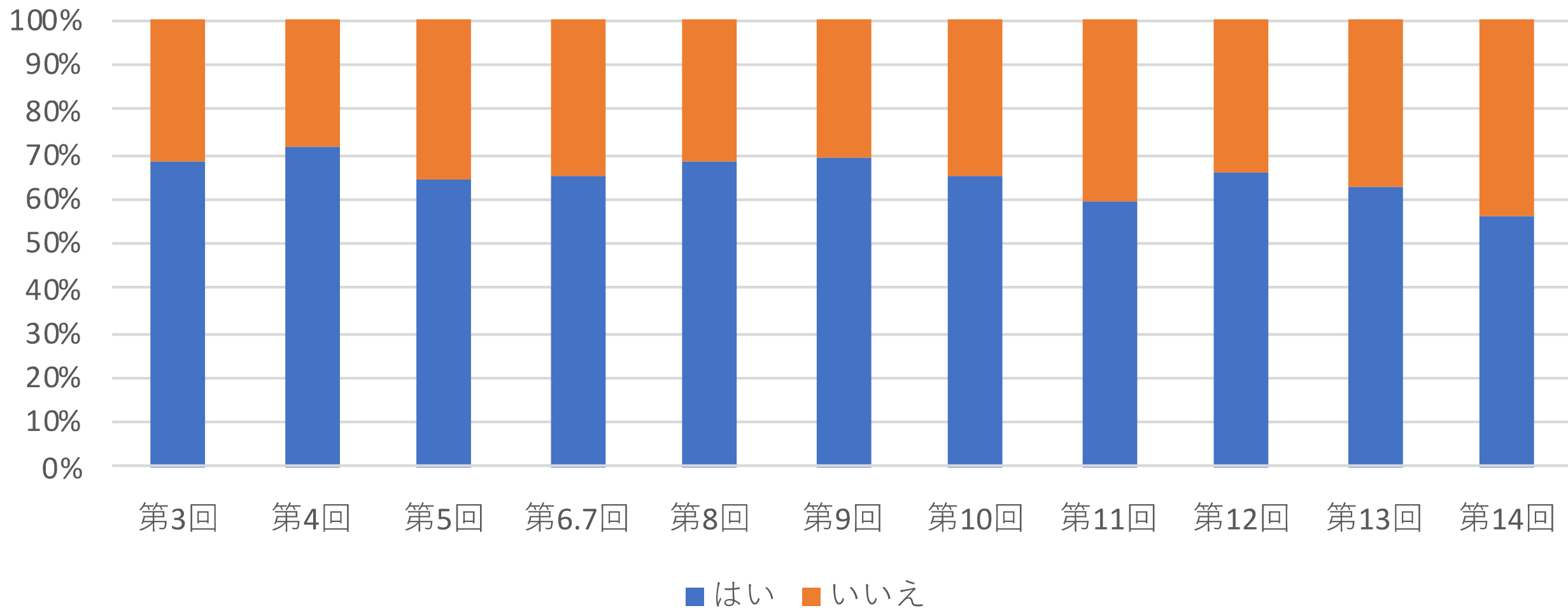
集中度（かなり集中＋集中）



直接評価＝視聴データ

→ 学生実態の把握
→ WEBだと見えない態度

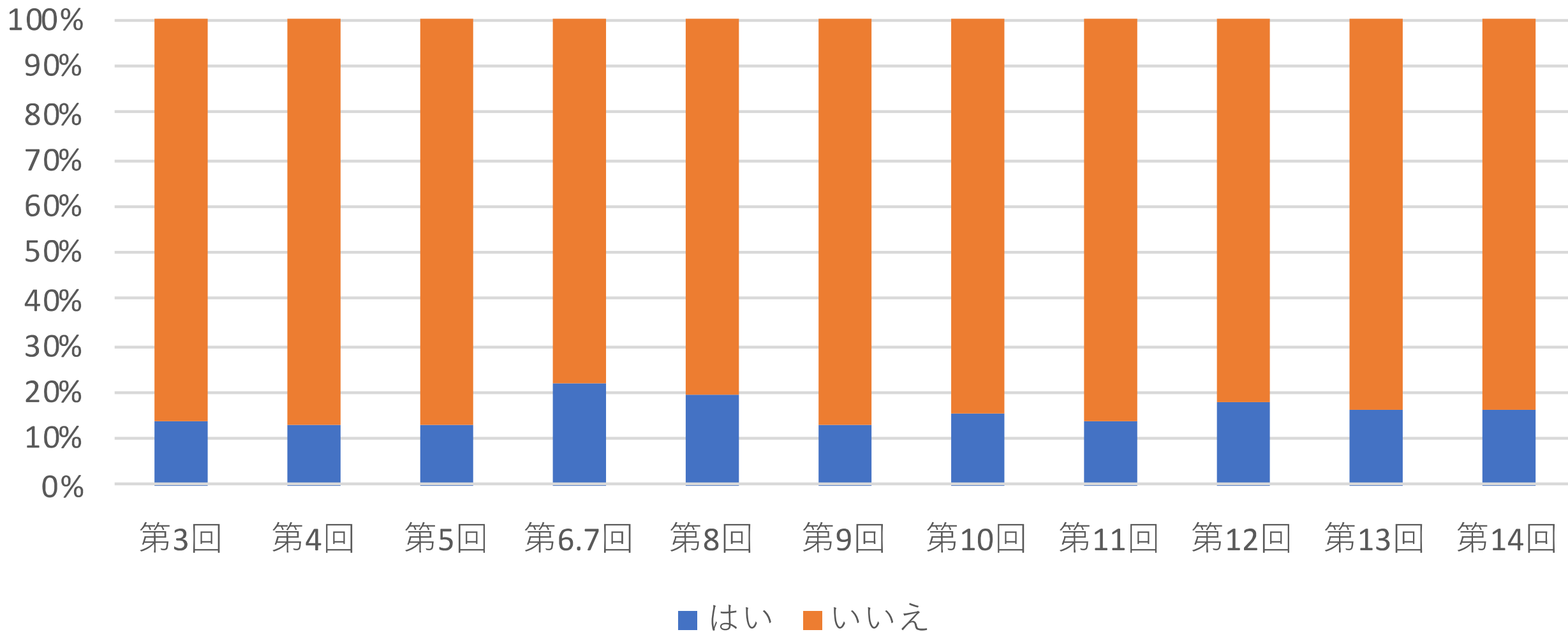
ノートを取っていました？



→ 学生実態の把握・WEBだと見えない態度

(2020春)

「飛ばし見」をしましたか？



→ 学生実態の把握・WEBだと見えない態度

(2020春)

評価フェーズの重要性

- 授業→特定行動を促す（アフォードする）環境設定

⇒授業によって学生の学習態度は変化

→授業ごとにデータをとって、設計されたフレームワークと対応させながら評価を行う必要

- 共通のアンケート調査<->複数の授業評価のメタ分析
- 「マス」として学生を捉える ≠ 学生一人一人の個性を捉える

考察

- 「WEB授業の構成と運営」は教員－学生の相互フィードバックを軸
✓例) 「成績」データは学生にとってフィードバック、教員にとっても
授業の成否を占うフィードバック
- このフィードバックはWEB授業特有の形態をとる場合も
→お互いに全てが数値化される Cf.同じ文面への不満
- 数値化によるメリットとデメリット
→マスの管理、マスの評価によるコンテンツの吟味
- 授業のフレームワークに合わせたベネフィットの自覚
→オンデマンド型授業とzoomを用いたライブ配信型授業では、ねら
うところが違う

Cf.少人数授業のあり方と大規模型授業のあり方